

※第25期案件（申請理由あり）

**公開シンポジウム（令和2年10月）、学術フォーラム（令和3年1月）の第25期初頭の開催****1) 公開シンポジウム（令和2年10月4日）の開催について**

公開シンポジウム「複合災害への備えー with コロナ時代を生きる」

1. 主 催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会
2. 共 催：防災学術連携体
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和2年10月4日（日）13時から14時30分
5. 場 所：オンライン開催（予定）
6. 分科会等の開催：なし

## 7. 開催趣旨：

新型コロナウイルスの感染拡大は日本全国、全世界に及んでいます。感染症への対策は続けねばならず、この間に生じる自然災害によって起こる複合災害にも警戒が必要です。防災学術連携体（防災に関わる58の学会が日本学術会議を要として集まった組織）は、沖縄の梅雨入りが近い5月1日に、市民への緊急メッセージ「感染症と自然災害の複合災害に備えてください」を発表しました。

日本は災害の多い国であり、南海トラフ地震、首都直下地震のみならず、気候変動の激化による豪雨災害にも備えねばなりません。「with コロナの時代」に生きる私たちは、今後どのように複合災害に備えていくべきでしょうか。医療と看護、気象災害と地震災害、地理・地形と自然災害、都市・建築と社会活動、災害と安全、防災と先端技術などの分野の専門家が集まり、知恵を結集して議論します。

## 8. 次 第：

総合司会 和田 章（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）13:00 趣旨説明 米田雅子（日本学術会議第三部会員、慶應義塾大学環境・エネルギー研究センター特任教授、防災減災学術連携委員会委員長）

13:05 新型コロナ感染症との戦い 日本災害医学会

13:20 気候変動と今年の風水害 日本気象学会

13:35 ディスカッション「複合災害への備えー with コロナ時代を生きる」

コーディネータ 日本学術会議 防災減災学術連携委員会委員

パネリスト 公募（防災減災学術連携委員会委員、防災学術連携体の58学会）

パネリスト 同

パネリスト 同  
 パネリスト 同  
 パネリスト 同

14:30 閉会挨拶 大友康裕（日本災害医学会代表理事、東京医科歯科大学教授、防災学術連携体  
 代表幹事）

（下線の講演者等は、主催委員会委員）

\* 本案は、防災推進国民大会 2020（主催：内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議）の中の一企画案です。

### ※申請理由

開催主体である課題別委員会「防災減災学術連携委員会」の設置（2021年3月末まで）を、次期に申し送りいただきたく、お願いいたします。

- ・日本学術会議は防災推進国民会議の構成機関のため、防災推進国民会議が主催団体の一部をなす「防災推進国民大会 2020」には日本学術会議としての参加が重要であると考えます。
- ・2016年から始まった「防災推進国民大会」には、課題別委員会「防災減災学術連携委員会」とその前身の課題別委員会がプログラムを出展してきています。  
 2016 52 学会の結集による防災への挑戦 - 熊本地震における取組み -  
 2017 衛星情報・地理情報と防災イノベーション／衛星情報・地理情報を防災に生かそう  
 2018 あなたが知りたい防災科学の最前線 - 首都直下地震に備える -  
 2019 あなたが知りたい防災科学の最前線 - 激化する気象災害に備える -
- ・これまでの実績を踏まえると、本年の「防災推進国民大会 2020」への出展についても、「防災減災学術連携委員会」が主体となって準備を進めていくことが必要と考えます。
- ・来期の会員・連携会員の2名以上が参加する体制の確保を見込んでいます（今期防災減災学術連携委員会の構成員から、24-25 期会員の米田雅子委員長、24-25 期連携会員の和田 章委員がシンポジウム参加予定）。

### 2) 学術フォーラム（令和3年1月）の開催について

2021年1月には学術フォーラム「東日本大震災の十年とこれから～58学会、防災学術連携体の活動」を企画しております。58学会とともに開催するためにはリードタイムが必要であるため、今期から準備を開始する必要があります。

このためにも、2021年3月末までの委員会の設置期間の延長をお願いする次第です。

防災減災学術連携委員会委員長 米田 雅子